

RETAILER ACADEMY NEWS

Aug 2017 | Bentley Motors Japan

CONTINENTAL STORIES

コンチネンタルGT、デビュー以来65,000台を製造
新キャンペーン「コンチネンタルストーリーズ」開始



2003年に発売されて以来、コンチネンタルGTはさまざまな賞を受賞し、最近ではSupersports、ブラックエディション、タイムレスシリーズという3つの新たな章がその歴史に加わりました。お客様を引き付けてきたこのモデルの魅力に記念し、英国ベントレー・モーターズは新しいキャンペーン「コンチネンタルストーリーズ」を開始しました。

コンチネンタルGTには、卓越したパフォーマンスと絶妙な洗練性、一流のラグジュアリーという3つの新たな章があり、大陸を軽々と横断してしまう、グランドツアラーの分野をリードする存在です。

この比類なき性能により、発売から65,000台もの販売を達成しました。「コンチネンタルストーリーズ」では、コンチネンタルGTの「Extraordinary」を体現する特性を示すことによって、コンチネンタルGTをあらためて賞賛するものです。

キャンペーン第1弾として、リテラー マーケティング ニュースのウェブサイト（英文）では、店頭用の動画やウェブサイト用の画像素材、各種ツールキットなどをダウンロードすることができます。また、右のようなコンチネンタルGTに関するさまざまなエピソードも紹介されています。

リテラー マーケティング ニュース

<http://retailer.bentley.co.uk/content/dmn/en/news/news-from-crewe/every-continental-has-a-story.html>



エクステリアデザインのヘッド、J.P.グレッゴリーのスケッチ

<https://www.youtube.com/watch?v=qQNemfsSI9o>



ピーター・ブレイク卿とコンチネンタルGT V8 S

https://www.youtube.com/watch?v=BnJPA_YO6Vw



コンチネンタルGT Breiting Jet Series by Mulliner

<https://www.youtube.com/watch?v=BS7dFLIGsQI&t=4s>



ユハ・カンクネン、氷上の世界最速記録を樹立

<https://www.youtube.com/watch?v=eI-xkdyL3MM>

各部を刷新して完成度を高めた

Mercedes-Benz S-Class



8月9日、メルセデス・ベンツ日本は、メルセデス・ベンツブランドの最高級セダンである新型Sクラスを発表。同日より予約注文を開始しました。今回発表されたモデルは2013年に登場したW222型のフェイスリフト版ですが、その中身は大幅に刷新されています。

大きく進化した「インテリジェントドライブ」

メルセデスでは、各種センサーやステレオマルチパーパスカメラなどにより、自車の周囲を常に監視する複合的なセンサーシステムを「インテリジェントドライブ」と呼んでいます。新型Sクラスでは、将来の自動運転につながる新機能を多数搭載し、「インテリジェントドライブ」をさらに進化させています。

先行車との車間距離を維持する機能の「ディストロニック・プラス」は、新型の登場に合わせて「アクティブディスタンスアシスト・ディストロニック（自動再発進機能付）」へと進化。先行車が停止後30秒以内に再発進した場合は、ドライバーがアクセルを踏むことなく自動で再発進する自動再発進機能を新たに装備しています。操作方法も、従来のステアリング横のレバーから、新たにステアリング上のスイッチを操作する方式に変更。ステアリングから手を離すことなく、より安全に操作することが可能になりました。

また、高速道路走行時に運転者がウインカーを操作すると、行き先の車線に車両がないことをセンサーが確認して自動で車線変更を行う「アクティブレーンチェンジングアシスト」も装備しています。



新たにステアリング上で操作可能となったアクティブディスタンスアシスト・ディストロニック

刷新されたパワートレイン

新型Sクラスは、12気筒エンジンを除くすべてのモデルでパワートレインを刷新しました。

ラインアップ中唯一の標準ボディとなるS 400は、従来のS 400 hが3.5L V6 ハイブリッドを搭載していたのに対して、新たに3.0L V6 直噴ツインターボエンジンを搭載。トランスミッションも従来の7速ATから9速ATに変更しています。

ロングボディの主力モデルとなるS 560 longとS 560 4MATIC longは、従来のS 550 longが搭載していた4.7L V8 ツインターボからメルセデス AMG GT用エンジンをベースとする4.0L V8 直噴ツインターボに変更。低負荷時に4気筒を休止させて低燃費を実現する、気筒休止機能を新たに採用しています。また、4輪駆動の4MATICモデルも新たに追加されました。

ハイパフォーマンスラグジュアリーセダンのメルセデス AMG S 63 longとメルセデス AMG S 63 4MATIC+ longには、S 560と同様にメルセデス AMG GT用をベースとした、4.0L V8 直噴ツインターボエンジンを搭載。低負荷の際に4気筒を休止させる、AMG シリンダーマネジメントも採用しています。最高出力612ps、最大トルク900Nmを発揮する強力なパワーユニットにより、メルセデス AMG S 63 4MATIC+ longの0-100km/h加速は3.5秒という俊足ぶりです。トランスミッションは7ATから9ATのAMGスピードシフトMCTに変更。4MATIC は、新開発のAMG 4MATIC+に進化しています。前後トルク配分を50：50 から0：100 の範囲で可変できる新システムにより、強力なパワーを4輪へ最適に配分することが可能になりました。



メルセデスAMG S 63 long/S 63 4MATIC+ longには、612psを発揮する4.0L V8直噴ツインターボエンジンを搭載

モデルごとの個性を明確にしたエクステリア

エクステリアでは、主にフロントとリアのデザインを変更しています。フロント周りでは、従来12気筒モデルにのみ採用していた3本ツインルーバータイプのフロントグリルを全車に採用。光ファイバーによる3本のラインが特徴的なフルLEDヘッドライトとともにデザインを一新しています。リア周りでは、華やかさと被視認性を両立させたクリスタルルックのLEDリアコンビネーションランプを新たに採用。そして標準モデル、AMGライン、メルセデス AMG車両のそれぞれに異なるデザインの前後バンパーを採用することにより、モデルごとの個性を明確化したのが特徴です。



上がAMGラインで下がメルセデス AMG S 63 long。同じAMGでもデザインは大きく異なる

快適性と機能性を高めたインテリア

インテリアでは、Eクラスと同じ大型の Cockpitディスプレイと、タッチコントロールボタン付のマルチファンクションステアリングを採用。メーター周りの一体感を向上させ、操作性も高めています。また、色が緩やかに移り変わるマルチカラーアニメーションを搭載したアンビエントライトにより、室内を様々な演出することが可能です。



64色から選択できるアンビエントライトは、2種類のカラーを同時に選択することも可能

新たなテレマティクスサービスも開始

新型Sクラスには、車両に通信機能を持たせることにより先進的なサービスを提供する「Mercedes me connect」（メルセデス・ミー・コネクト）を全車に搭載しています。この新たなテレマティクスサービスは、事故発生時や故障時にコールセンターやサポートセンターにつながる「安心安全サービス」、スマートフォン操作でドアロック操作や駐車位置検索、そして駐車操作を車外から行える「快適サービス」、さらに車内のスイッチを押すだけで専門のオペレーターが24時間365日対応する「おもてなしサービス」の3つのサービスで構成されます。特にスマートフォン操作で車外から駐車操作が行えるシステムは、先進性を強くアピールするサービスとして注目されます。

価格

従来のディーゼルやハイブリッドモデルが廃止され、ガソリンエンジンのみとなった新型Sクラス。多彩なラインアップを用意していた従来モデルからは路線変更とも取られるだけに、今後の市場での反応が注目されます。

S 400	11,280,000円
S 560 long	16,460,000円
S 560 4MATIC long	16,810,000円
S 600 long	23,310,000円
メルセデスAMG S 63 long	24,510,000円
メルセデスAMG S 63 4MATIC+ long	24,910,000円
メルセデスAMG S 65 long	33,230,000円

COMPETITORS INFORMATION



特別仕様車	ボルシェ 911 ターボS エクスクルーシブシリーズ
発表・発売日	2017年7月10日 予約受注開始
概要	・「Porsche Exclusive Manufaktur」ブランドの第一弾モデル。全世界500台限定。日本では右ハンドル車4台、左ハンドル車2台計6台のみ販売 ・手作業で製作される専用の内外装 ・最高出力は27psアップの607psを発揮。0-100km/h加速は2.9秒、最高速度は330km/h
車両価格(税込)	ボルシェ 911 ターボS エクスクルーシブシリーズ：33,340,000円
デリバリー開始時期	—



ニューモデル	メルセデス AMG GT R
発表・発売日	2017年6月27日 発売
概要	・GT3クラスの競技車両「メルセデス AMG GT3」の技術を投入した、完全受注生産の公道走行可能なレーシングモデル ・強化されたエンジンと専用エクステリア ・メルセデスAMG初の4輪操舵システムを採用
車両価格(税込)	メルセデス AMG GT R：23,000,000円
デリバリー開始時期	—



特別仕様車	マセラティ グラントゥーリズモ/グランカブリオ 60th anniversary edition
発表・発売日	2017年6月30日 発売
概要	・1957年のマセラティ 3500GTの発表から60周年を記念した、世界限定60台の特別仕様車。日本ではグラントゥーリズモとグランカブリオで各5台、計10台のみ限定販売 ・専用外装色とMCデザイン・エクステリアなどを装備
車両価格(税込)	マセラティ グラントゥーリズモ 60th Anniversary Edition：20,170,000円 マセラティ グランカブリオ 60th Anniversary Edition： 20,970,000円
デリバリー開始時期	2017年8月以降



ニューモデル	BMW 5シリーズ ツーリング
発表・発売日	2017年6月22日 発表
概要	・新型5シリーズ セダンベースの新型ツーリング ・部分自動運転を可能とした運転支援システムの搭載 ・ディーゼルエンジンモデルから4輪駆動モデルまで幅広いラインアップ
車両価格(税込)	BMW 523i ツーリング： 6,500,000円～ BMW 523d ツーリング： 7,460,000円～ BMW 530i ツーリング： 8,120,000円～ BMW 540i xDrive ツーリング： 10,520,000円～
デリバリー開始時期	2017年7月以降。BMW 523i ツーリングのみ9月以降



ニューモデル	アウディ RS 5 クーペ
発表・発売日	2017年6月21日 発表・9月下旬発売
概要	・エンジンを従来の4.2ℓ V8 DOHCから新開発の2.9ℓ V6 ツインターボに変更 ・最高出力331kW(450ps)、最大トルク600Nmで、0-100km/h加速は3.9秒、最高速度は280km/hに ・標準モデルに比べて全幅を15mm拡大した専用のプリスターフェンダーを採用
車両価格(税込)	アウディ RS 5 クーペ：12,570,000円
デリバリー開始時期	—



一部改良	キャデラック エスカレード
発表・発売日	2017年6月17日 発売
概要	・トランスミッションを従来の6速ATから8速ATに変更 ・「プレミアム」の2列目シートをベンチシート化し、乗員定数を7人から8人に変更 ・縦列・並列駐車操作をアシストするオートマチックパーキングアシストを採用
車両価格(税込)	キャデラック エスカレード プレミアム：12,600,000円 キャデラック エスカレード プラチナム：13,600,000円
デリバリー開始時期	—

MOTORSPORT



スパ24時間で2位表彰台を獲得！
ブランパンGTシリーズ

ベントレー・チームMスポーツがフル参戦するブランパンGTシリーズは、7月27日～30日にベルギーのスパ・フランコルシャンで第7戦の耐久カップ、伝統のスパ24時間レースが開催され、コンチネンタルGT3の8号車（Soulet/Abril/Soucek組）が2位表彰台を獲得しました。

注意深く決められたレース戦略でしたが、レースの大半でベントレー・チームMスポーツがライバルチームを上回れない厳しい展開。それでも粘り強く戦い続けたため、24時間の耐久イベントの最終段階で

その成果が現れました。レースの最後の1時間に突入し、Souletがピットを後にした段階でトップを走るアウディ 25号車との差はわずか10秒ほど。最後まで激しくブッシュしたものの、ギャップを縮めることはできず2位でフィニッシュしました。世界有数のタフなモータースポーツイベントであるこのスパ24時間で、8号車が重ねた周回数

は546。3800km以上を走りきりました。
この結果、チームMスポーツは耐久カップのチームランキングでトップに躍り出ました。耐久カップのドライバーズランキングでも、

Soulet/Abril/Soucekの3人がトップを維持。シリーズ総合のチームランキングは2位に浮上し、同ドライバーズランキングではVincent Abrilが110ポイントでトップに立ちました。

ベントレーのモータースポーツ責任者であるブライアン・ガッシュは「3部門でトップに立ち、スパを後にできることを嬉しく思います。残り3戦、しっかりと準備をして臨みます」などとコメントしています。

次戦は8月25日～27日にハンガリーのブダペストにあるハンガロリンクで行われる第8戦のスプリントカップです。チャンピオンが見えてきたベントレー・チームMスポーツに、熱い声援をお送りください！



新旧ベントレーボーイズ

— 語り継がれる伝説 —

ブランパンGTシリーズ第7戦のスパ24時間レースは、コンチネンタルGT3にとって500回目という節目のレースでした。
現代のベントレーボーイズたちは、チームの総合チャンピオン獲得とドライバーズチャンピオンの獲得に向け、残り3戦を戦います。
このようにベントレーとモータースポーツは切っても切れない関係にあります。

その礎を築いたのは、ベントレー黎明期に活躍したオリジナルのベントレーボーイズたちでした。今回は新旧ベントレーボーイズを紹介します。

ORIGINAL

BENTLEY BOYS



Sir Henty 'Tim' Birkin

ヘンリー・“ティム”・パーキン卿

青と白の水玉模様のスカーフ、そしてきれいに整えられた口ひげがトレードマークだったが、戦闘機パイロットだったヘンリー・“ティム”・パーキン卿で、英国モータースポーツの英雄です。彼は裕福な Dorothy Paget に対し、「Blower」として知られるスーパーチャージャー搭載のベントレー4.5リッターのチームに資金援助してくれるようにしたことで知られています。パーキン卿は耐久レースのスプリントで無敵を誇り、1932年にはブルックランズで約221km/hという信じられない記録を打ち立てました。



Glen Kidston

グレン・キズトン

1930年にウルフ・バーナート(写真右)とともにル・マンで優勝したキズトンは、常に危険と隣り合わせの人生を送りました。英国海軍将校時代には、2度の魚雷攻撃を生き残りました。彼はまた、クロイドンからアムステルダムへ向かう航空機が墜落した事故の唯一の生存者で、他の乗客を救うため炎上する機体に戻ったこともありました。後にバーナートはキズトンを「理想のスポーツマンだ。彼の辞書からは恐怖という文字は抹消されている」などと評しています。



J.D. 'BENJY' Benjafield

J.D. 'BENJY' ベンジャフィールド

控えめで思慮深く、信じられないほど巧みなスキルを持っていたベンジャフィールドは、ベントレーボーイズの中でも最も速くないドライバーでした。しかし、結果を得るためにチームの規律を守るドライバーでした。ベンジャフィールドはサミー・デビスとともに1927年のル・マンで優勝。1928年には「ブリティッシュ・レーシング・ドライバーズ・クラブ」を設立し、英国モータースポーツに多大な貢献をしました。



John Duff

ジョン・ダフ

ジョン・ダフはベントレーに初めてのル・マン24時間レースのタイトルをもたらしたドライバーです。1914年に第一次世界大戦が勃発すると、ダフは当時の根拠地である中国の廬山から参戦し、ベルギーのイーペルの戦いで負傷しました。戦後ダフはモータースポーツの世界に身を投じ、W.O.ベントレーにル・マンに参戦するよう説得しました。1924年のル・マンでは、ベントレーのワークスドライバーであるフランク・クレメントとともに4位になり、翌年に優勝しました。

NEW

BENTLEY BOYS



Bentley Team M Sports

ベントレー・チームMスポーツ

2017年のブランパンGTシリーズに参戦するコンチネンタルGT3を駆るのは、7号車が Guy Smith、Oliver Jarvis、Steven Kane。8号車は Maxime Soulet、Vincent Abril、Andy Soucek の計6人です。Guy Smith は2003年のル・マン優勝ドライバーでもあります。



Derek Bell

デレク・ベル

ル・マン優勝5回を誇る英国モータースポーツの英雄であるデレク・ベル。ベントレーのブランドアンバサダーを長年務め、2003年のル・マン優勝を影で支えました。コンチネンタルGTの開発にも関わった、ベントレーの生きるレジェンドです。



Juha Kankkunen

ユハ・カンクネン

世界ラリー選手権(WRC)で4度の総合優勝に輝いたフィンランドの英雄は、2011年にコンチネンタルSupersportsコンバーチブルで氷上の世界最高速度(330.695km/h)を記録しました。Power on Iceのインストラクターを務めたこともあります。

ベンティガ用の格納式シルステップが登場

ベンティガ用のオプションとして、格納式シルステップが登場しました。このオプションは、乗員の乗降を楽にするものです。ステップはフロントホイールアーチからリアホイールアーチまでの長さがあり、ドアを開けると自動的に展開（写真上）し、ドアを閉じると自動的に格納（写真下）されます。

ステップにはカーボンファイバーインサートが装着されているため、機能面での優位性だけでなくベンティガのスタイリングを補完するものとなっています。そのため、スタイリングスベックとともに装着するのに理想的なオプションです。価格は521,700円（税別）。作業時間は16時間程度です。在庫があるため、通常の部品発注方法（部品番号JBL 636 AC3）でご購入いただけます。ぜひお客様にお勧めください。



デザインディレクターのシーラフ氏がMullinerの責任者も兼務

ベントレー モーターズはこのほど、デザイン部門を統括するディレクターのステファン・シーラフ氏をビスポーク部門のMullinerの責任者も兼務することを発表しました。

Mullinerはこれまで、ベントレーのスタイリングとエンジニアリングに裏付けられた高度なスキルを持つ職人たちが、お客様のあらゆるご要望を形にしてきました。Mullinerの責任者を兼務することについて、シーラフ氏は「Mullinerの可能性は無限大です。我々のような技術力のあるコーチビルダーにとって、実現できないことなど何もありません」などとコメント。さらに、「私はもっとワンオフやビスポークのクルマで冒険がしたい。イマジネーションの限界は、お客様の中にしかありません。デザインとパーソナライズが手と手を取り合うことで、Extraordinaryが生まれると考えています」などとも語っています。

ベントレー モーターズのウォルフガン・グ・デュルハイマー会長兼CEOは、「絶妙なスタイリングとお客様のビジョンを生かす能力が、ベントレーを常にユニークなものにしてきました。このたびシーラフ氏が両方のチームで指揮を執ることを決定しましたが、Mullinerが彼のリーダーシップで大きな利益をもたらしてくれると確信しています」と期待を語っています。

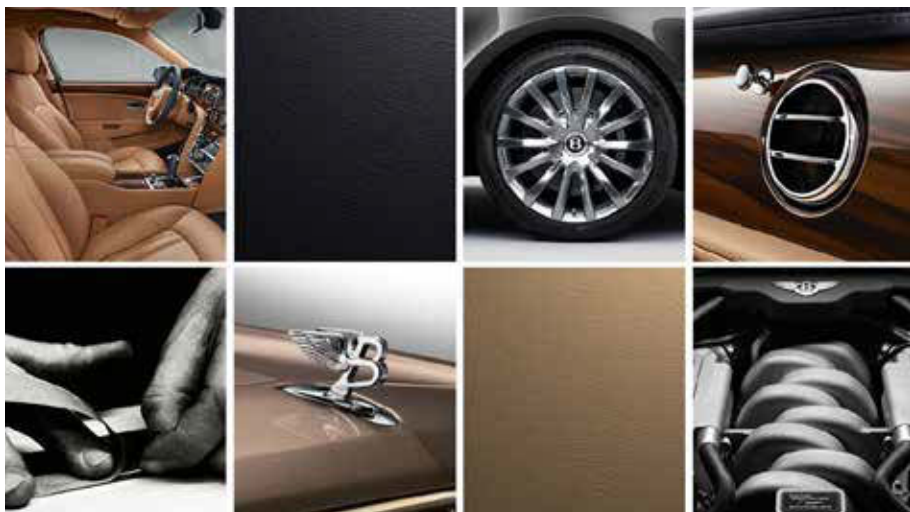


コンフィギュレーターが新機能を備えて8月31日に登場

ベントレー モーターズは8月24日、新機能を備えたカーコンフィギュレーターをリリースしました。新コンフィギュレーターは、よりシンプルでより速く作動し、より直感的な操作が可能になり、クルマの仕様が素早くストレスなく決められるようになります。

さらに、完全に販売拠点の地域性に合わせるようなシステムに改良しました。リテラーがBentley Hubを経由してこのシステムにアクセスすると、システムは自動的にアクセス元を認識。どの地域かを特定し、その地域に合わせた内容を表示します。これにより、リテラーとお客様が指定したいクルマの仕様がより正確に表現できるようになります。

新コンフィギュレーターのメリットは少なくありません。商品の情報やオーダーのプロセスといった情報も豊富で、ビスポークにおいてもリテラーの日常業務をサポートできるものです。また、商品情報のアップデートもさらに速く行うことが可能となります。



新型コンチネンタルGTの2Dイベントを全国で開催

ベントレー モーターズ ジャパンはこのほど、新型コンチネンタルGTの2Dイベントを全国で開催しました。会場は東京、名古屋、福岡、広島、大阪の5都市で、計51組のVIPゲストにお越しいただきました。

新型コンチネンタルGTは、これまでのグランドツアラーとしての性能はもちろんですが、スポーツドライビングを楽しめる性能が大きく向上したモデルとして、現在開発が進められています。デザインもベントレーの伝統を踏襲しながら、「ワイド&ロー」を強調したダイナミックかつスタイリッシュな姿に変身しています。

ご来場いただいたゲストの皆様の評価はとて高く、特にインテリアは高評価でした。フランクフルトモーターショーで公開される予定のため、その後は大きな反響があると期待されています。



世界の各種メディアでは試験中の新型コンチネンタルGTの姿がスクープされており、注目度が高まっている。

スペックからみるベンティガのオフロード性能

日本では、本格的なオフロードを走るシーンがなかなか想像しにくいベンティガですが、世界最高レベルのラグジュアリー SUVとしての快適性と同時に、フラットダートから起伏のある荒地、雪道、砂漠まで、さまざまな路面コンディションに対応できる走破性能が与えられています。

今回はスペック表の数値からベンティガのオフロード性能を読み取ってみましょう。



悪路走破性を左右する5つのディメンジョン

一般的な乗用車にはありませんが、オフロード走行を視野に入れたSUVやクロスカントリー車のスペック表には、必ずと言っていいほど次の5項目が記載されています。

この数値からオフロードにおける走破性のある程度予測することができます。

アプローチアングル/デパーチャーアングル

路面に対して、フロントタイヤの接地点とフロントバンパー下端とを結ぶ線が成す角度をアプローチアングル、リアタイヤの接地点とリアバンパー下端（あるいはマフラー下端）とを結ぶ線が成す角度をデパーチャーアングルと呼びます。前後のオーバーハングが小さいほど、車高が高いほど角度は大きくなり、急な坂道への進入、脱出の際にバンパーが路面と干渉しにくくなります。



起伏の激しいオフロード走行では、アプローチアングルとデパーチャーアングル、ランブブレークオーバーアングルの数値が特に重要になります。

ランブブレークオーバーアングル

前後タイヤの接地点から、前後アクスル中間のボディ最底部に向けて伸ばした線が交差して成す、上下方向の角度を指します。この角度が大きいほど、障害物を乗り越える際にボディ底部、いわゆる『ハラ』を打つ可能性が低くなります。ホイールベースが短いほど、ホイール径が大きいほど、ランブブレークオーバーアングルは大きくなります。

車高の低いスポーツカーやホイールベースの長いトレーラーが、鉄道路踏切のレールのふくらみにボディのハラがつかえて身動きできなくなった、というニュースを時折耳にしますが、これはランブブレークオーバーアングルが小さいことによる典型的な事象です。

■ オフロード性能比較

	アプローチアングル	デパーチャーアングル	ランブブレークオーバーアングル	最低地上高	最大許容水深
ベントレー ベンティガ	24.9°	25.0°	22.2°	252.5mm	545mm
ボルシェ カイエン	29.1°	25.7°	20.4°	217mm	500mm
メルセデス・ベンツ G550	30°	30°	24°	235mm	600mm
ランドローバー レンジローバー・ヴォーグ	26°	24.5°	20.1°	220mm	900mm（最大車高）

ライバルと目される3モデルとの走破性5要素を比較してみました。ベンティガを含めて、車高調整機能のあるモデルについては標準車高での数値を基本としています。この数値からも、同じラグジュアリー SUVに属するカイエン、レンジローバーと同等、あるいは上回る走破性を備えていることがわかります。

最低地上高

路面とボディ底部の最も低い部分との距離を表した数値です。一般的に前後のデフギア部分が最も低くなるので、それぞれの最低地上高とセンターデフ部分の指定地上高を分けて記載しているモデルもあります。アプローチアングル/デパーチャーアングルとの絡みもあり、この数値が大きい＝走破性が高いとは言いきれない面があります。

最大許容水深

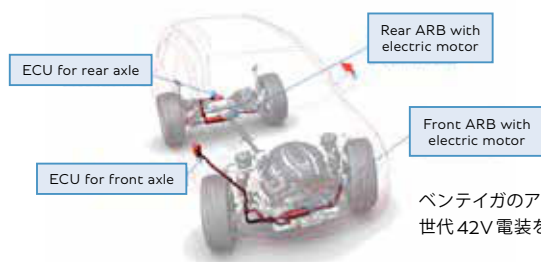
読んで字のごとく、走行可能な水深を表しています。単純に最低地上高の高い低いだけでなく、シャシー構造やエンジンの吸排気レイアウトによっても大きく左右されます。

先進のオフロード走行サポート機能

ベンティガでは、基本的なシャシーディメンジョンに加えて、電子制御によるドライバーサポートシステムでもオフロードにおける走りを強力にサポートします。これまで何度か取り上げていますが、ここであらためて解説しておきましょう。

アクティブロールコントロール

走行状況に応じてスタビライザーのねじれ剛性を自動的にかつ瞬時に変化させるシステムです。ともすると舗装路における快適性とコーナリングスタビリティを両立させるためのメカニズムと捉えられがちですが、起伏の激しいラフロードにおけるタイヤの路面追従性（アクスルアーティキュレーション）向上にも大きく貢献しています。



ベンティガのアクティブロールコントロールは、その動作に次世代42V電装を使用していることでも注目を集めています。

ヒルディセントコントロール

上り下りともに10%を超える勾配において、2km/h～40km/hの間で任意に設定した速度を自動的に維持する機能です。加えて、アンダーフロアカメラが映し出す映像によって前方直下の路面コンディションをリアルタイムで確認することができ、ドライバーはアクセルコントロールに気をを使うことなくステアリング操作に集中ができます。これは、オフロード走破性において大きなプラスの影響をもたらします。



急勾配において、アクセルワークに気をを使うことなくステアリング操作だけに集中できることは、ラフロードにおける車両のコントロール性を大きく高めます。